



Vol.38

ゆうことみゆきのふくふくトーク

ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

タンネカムイ(ヘビ) / トッコニ(マムシ)



陽射しがぼかぼかと暖かくなる
と、私の勤める博物館のチセ(伝統

家屋)の周りや窓にしばしば長いものが遊
びにやって来ます。長いものの正体はヘビ!

「ここはもともとヘビワラだったから多い

んだ。ヘビはおつかないカムイ(神)だから殺
すもんでない」と聞かされてきました。ヘビ
を殺すと病気になるったり、財産を失ったり
して崇られるという話…。その反面、ヘビの
お蔭で難を逃れた話も多いほか、屋根裏に
ヘビが棲みつくとその家が裕福になったり
と、運を授けてくれる良いカムイとも思わ
れている。

アオダイシヨウやシマヘビなどはタンネカ
ムイ(長い神)やキナスツカムイ(草の根もと

の神)などと呼ぶほか、毒のあるマムシはト
ッコニやカミヤシ(ばけもの)と呼んで敬遠
していたみたい。

クマはヘビがとっても苦手だって知ってま
した?クマに遭遇したら、タラ(荷縄)の縄を
引っ張るようにするとヘビと間違えてクマ
の方が逃げていくんだって。

私もクマと同じくヘビが苦手。嫌なもの

ほど目につくっていうけど、森に入ってもヘ

ビに遭遇したことが無いの。幸いなことに。

でも一度だけ、沼でガマを刈っていたら、かま

首上げたヘビが泳いで私に向かってくる時

は驚いたわ。逃げようにも泥に足をとら

れて抜けなかったので長靴だけを残し、裸

足で沼岸上がったの。怖かった。

白老でマムシの話はあんまり聞かないけ

ど、平取の優子さん家の庭にマムシが出た

ことあるんだって?

マムシ! 二風谷の萱野
先生の庭で遭遇しまし

た! 先生は、すぐさまマムシを又

木で押さえ「子どもたち呼んで

来い」って。走ってきた息子たちに

「これがマムシ。絶対に近寄った

らダメ」と教えてくださったの。

それから捕まえたマムシを一升瓶

の中に入れ、水を注ぎ…十分に



汚いものを出させてから、焼酎を注いでマムシ

酒を作られたのでした。私はおっかなびっくり

その一部始終を見ていたんだけど、おかげで我

が家の庭に出た時にはすぐにマムシってわかっ

たの。もちろん捕まえることなんてできない

から、キャーキャー言って逃げたけどね。

こんなふうに書くと、二風谷ってそんなに

マムシがウヨウヨって思われそうだけど、

私のマムシ体験はその2回だけ。ご安心を。

ところで、日高地方には日本百名山の一

つ、幌尻岳(ポロロ大きい、シリ山)があり、

アイヌの人たちも霊峰として崇めてしまし

た。その頂上近くの神域にあるとされるの

が、伝説のカイカイウント(白波の立つ

湖)。そこには海の魚が泳ぎ、昆布が生えて

るんだけど、その昆布は岸に寄り上がるとヘ

ビに変わるんだって。実はこの伝説にはいろ

んなパターンがあり、私が一

番ソツとしたのは、背中に

背負っていた昆布の束が、

下山途中のある瞬間に、

のたうつヘビの束になった

というお話。きつと神々の

領域と人間の領域の境目

で姿が変わるんでしょ

ね。…思わず、台所の昆

布の束をジッと見てしま

う私です。●

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。